

2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	リスク管理応用理論小委員会		主 査 名：栗田 哲 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 応用力学運営委員会		委員長名：和田 章 主 査 名：竹脇 出
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクの評価や対策に関する手法の理論的体系化 ・リスク管理理論の問題点の抽出と新展開 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し		
	栗田哲(東北大学), 藤堂正喜(戸田建設), 奈良岡浩二(清水建設), 和泉正哲(清水建設), 浅野幸一郎(関西大学), 石田勝彦(電力中央研究所), 大堀道広(工学院大学客員研究員), 滝澤春男(北海道大学), 武田正紀(清水建設), 石田寛(鹿島建設), 矢花修一(電力中央研究所), 高田毅士(東京大学), 佐伯琢磨(応用アール・エム・エス), 佐藤健(東北大)		
設置 WG (WG 名: 目的)			
2005 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	地震リスクの評価法について、話題提供を含め、レビューを行い、討論を行った。1966 年の Cornell の論文を端緒として始まった地震リスク評価法の研究は、地震学及び統計・確率理論の新展開を取り入れ、新しい手法を数多く提案してきた。だが、理論的整合性の取れないと思われる手法が散見されること、リスク評価手法に関する統一理論が無いことが明らかになった。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 .地震リスク評価の必要性が高まっている現状を踏まえると、リスク評価手法の統一理論の構築を早急に行う必要がある。 2 .WG を発足させ、上記の課題についても検討し、成果報告を行うことが課題。